

## はじめに

### ○学校給食での地産地消の取り組みを紹介しています。

愛知県では、平成15年度から学校給食での地産地消を推進するため、「学校給食地産地消推進事業」を3年間実施しました。今回作成しました「あいちの学校給食地産地消」は本事業を実施した市町村の取り組みを中心に紹介しています。

### ○地産地消で食料・農業への関心を高めたい。

本県は、名古屋市をはじめとする大消費地をかかえており、学校給食は、共同調理場等、大規模になっています。したがって、学校給食の農産物は、大口ロット・規格の揃ったものが求められています。一方、地産地消を進めるうえで、取り入れたいものとしてあげられる地元の特産物などは、特徴的であるがゆえに生産規模が小さく、規格が揃いにくいものになっています。そのため、学校給食と地産地消は近くて遠いものになっていました。

しかし、栄養職員の方をはじめとした市町村の関係職員や生産者の方々が、様々な工夫を凝らし、学校給食へ地元の農産物を積極的に取り入れられています。その取り組み方は、市町村によって様々ですが、「児童生徒に新鮮な地元の農産物を食べてもらおう。」「地元の農業を知ってもらい、食への関心を高めよう。」とする目的のもと進められています。紹介している事例の他にも、地域に特徴的な様々な取り組みがあります。

### ○愛知県農業のよき理解者を育てよう。

平成17年7月に「食育基本法」が施行され、農産物等の生産における体験活動の促進や生産された地域内の学校給食における利用、生産者と消費者との交流を図ることにより、農山漁村の活性化と我が国の食料自給率の向上に資することとされています。

学校給食での地産地消を進めるためには、学校給食関係者と農業関係者がより一層連携していく必要があります。愛知県では平成18年度から「食育推進課」を設置し、学校給食での地産地消をさらに推進して参ります。

地産地消の推進によって、児童生徒が将来に亘る愛知県農業のよき理解者（県産農産物サポーター）となるよう期待するとともに、この冊子が、学校給食における地産地消を推進する上での一助となれば、幸いです。